

データサイエンス共同利用基盤施設
令和2年度 第6回運営会議 議事概要

日 時：令和3年3月4日（金）10:00～12:00

場 所：ウェブ会議（zoom を利用）

出席者：

- 【外部委員】近藤委員、諏訪委員、高橋委員、照井委員、中井委員、堀委員、三好委員、
矢嶋委員、横山詔一委員、横山雅之委員
【内部委員】藤山委員、小原委員、門倉委員、前田委員、北本委員、野口委員、上野委員、
野水委員
【陪席】 五斗副センター長、荒木特任教授、昨間 DS 推進係長、遠藤 DS 推進係員

議 事：

議事に先立ち、昨間 DS 推進係長から、定足数を満たしており本会議が成立することが報告された。

審議事項

1. 前回議事要旨確認

修正意見等がある場合は会議終了までに申し出ることとし、特段の意見はなかったため、案のとおり確定した。

2. 令和3年度人事について

昨間 DS 推進係長、各センター長から、資料2-1・2-2（回収資料）に基づき、新規（採用・兼務・称号付与）及び継続（採用・兼務・客員）の各件について説明があり、審議の結果、承認された。

3. 2021 年度公募型共同研究の募集開始について

野水委員から、資料3-1～3-4に基づき、2021 年度の公募型共同研究について、募集要項に「審査員自身が代表者又は共同研究者の場合は、課題の審査に加わらない」ことを明記し、その他は従来通り大きな変更はせずに募集を開始する旨説明があり、審議の結果、承認された。審査要項については、軽微な記載漏れ附番ミスがあったため、修正することとした。また、以下の意見交換を行った。

・コロナ禍という状況で、公募を増やすための対策等はしているか。また、新規機関の参加数が順調に伸びているように見えるが、今後の展開への考えがあれば伺いたい。

→公募型一般共同研究は大学共同利用機関のメインミッションと考えている。各種イベントや文科省ヒアリング等で本件を説明しているため、審査員を通して宣伝効果はあるかもしれない。また、研究コーディネーターによる学会等での広報、ROIS-DS 成果報告会の実施等で周知に努めている。

- ・公募型共同研究の中で COVID ワークのようなものを作り、感染研と共同で研究を行うのはどうか。

→感染研がデータを提供することは個人情報保護の関係で難しい。また、機構内部の共同研究で COVID 課題の公募・研究を実施しており、成果については過日行われた機構シンポジウムで発表を行った。

- ・コロナにより、移動や集会の規制等から国内の共同研究環境は厳しいものとなったが、Zoom 等オンラインでの参加が一般化することで、逆に海外からの参加が気軽なものとなり、国際共同研究は闊達になった面もある。公募型共同研究においても、海外からの参加研究者を増やすチャンスになるのではないかと。

報告事項

4. 第 4 期中期目標期間に向けての検討状況について

藤山委員及び五斗副センター長から、資料 4-1～4-3 に基づき、第 4 期中期目標期間に向けての検討状況について、現在は文科省から示された中期目標の大綱素案から機構としての項目を選択し、対応する中期計画を検討している旨説明があった。また、以下の質疑応答を行った。

- ・概算要求事項となっている「日本文化ビッグデータ研究ハブ」について、具体的な構想等はあるのか。

→これまで国文研等と行っていた共同研究をさらに拡大発展させることを想定している。例えば、古典籍の全文検索等、大きなサービス化の研究は一つの可能性だと考えている。もう一つは、古典籍に含まれる情報だけでなく、例えば古典籍に付着している髪の毛のゲノム分析や使用されている紙の分析など、他分野へも研究範囲を広げることと考えている。このような可能性の中から今後絞っていく予定である。

5. 来年度予算（機能強化経費予算の機構内配分案）について

藤山委員から、資料 5-1 に基づき、2021 年度機能強化経費予算の機構内配分案について、組織整備分として 1 名の人員増が認められた旨報告があった。この予算はデータサイエンス教員養成プロジェクトで使用を予定しており、第 4 期は統数研と DS 施設の共通センター設置を検討している。また、これから DS 施設と機構本部（戦略企画本部）との予算配分を検討する予定であり、DS 施設内の配分内訳は次回の運営会議で報告したい旨、説明があった。

6. その他（第 1 回 ROIS-DS 成果報告会）

野水委員から、資料 6-1 に基づき、2021 年 2 月 5 日に開催した ROIS-DS 成果報告会について、当日は 138 名の参加があり、講演内容は動画として公開予定である旨報告があった。また、資料 6-2 に基づき、研究コーディネーターの活動実績について説明があった。

藤山委員から、外部委員においては今年度の活動に対する謝辞と、次年度も継続して委

員をお願いしたい旨依頼があった。

また、以下の意見交換を行った。

- ・データサイエンス分野は異分野融合やオープンサイエンス、教育への貢献という面から今後も発展が見込まれるが、その際一般やマスコミ等素人にもわかりやすい具体例を説明用に用意しておくとのよいのではないかと。例えば、東大では地震研と史料編纂所で共同研究を行っているが、これは史料編纂所にある古文書等歴史資料から過去の地震情報を研究するもので、マスコミや役人には興味を持ってもらえる。
- ・データサイエンスの基本的な手法やそれを用いた各分野への応用事例を教科書として本にまとめると、皆が使える研究成果となる。
- ・異分野融合をより促進するために、手法を研究する側は活発に研究されている手法を紹介し、データを応用する側はどのようなデータがあるかを紹介する機会があるとのよいのではないかと。
- ・中目計の大綱について、第3期との違い、新たに追加された項目、または落とした項目は何か。

→第4期中目計の基となる文科省研究環境基盤部会の審議のまとめで、大学共同利用機関は、先端研究、共同利用・共同研究、人材育成がミッションとして平成30年度末に示されている。その後に提示された第4期中期目標大綱（仮称）（素案）等では、データサイエンスに係る人材の育成強化、コロナ後の新常態への対応、デジタル化社会への取組（いわゆるDX対応）、の3点が追加されているものと理解している。

- ・ROIS-DS 成果報告会の参加者は、もっと多くてもよいのではないかと。データの解析処理や統計処理に関する問い合わせは多く、データサイエンスへの社会的需要を強く感じるため、DS施設の活動が広く知られるよう、今後も各業種・分野とのパイプを強め、広報活動をして進めてほしい。

以上

資料：

0-1	データサイエンス共同利用基盤施設運営会議委員名簿	P. 2
0-2	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設運営会議規程	P. 3
1-1	令和2年度第5回運営会議議事概要（案）	P. 5
2-1	令和2年度人事案件 審議対象者リスト	画面共有
2-2	令和2年度人事案件 審議資料（回収）	画面共有
3-1	ROIS-DS-JOINT2021 審査要項（案）	P. 9
3-2	募集要項（和文、ウェブページ）	P. 13
3-3	募集要項（英文、ウェブページ）	P. 14
3-4	（参考）参加者所属機関分布	P. 15

4－1	中期目標期間に向けての検討状況	P. 16
4－2	中期目標大綱素案	P. 18
4－3	中期目標・中期計画の項目等について	P. 24
5－1	機能強化経費予算機構内配分案	P. 26
6－1	DS 成果報告会	P. 27
6－2	（参考）研究 CD 活動報告	P. 30